体育大学生の就職活動と進路意思決定の要因
ー半構造化インタビュー調査を用いてー

スポーツ経営組織学ゼミナール　1315006　飯田　貴之

１．研究動機・研究目的

近年、新卒者の就職活動においては「売り手市場」という言葉が飛び交い、就職率は高水準で推移している。文部科学省の調査においては、平成 30 年 3 月の大学生の就職率は 98.0％（前年同期比 0.4 ポイント増）と調査開始以降で過去最高を示し、また、就職情報大手のリクルートキャリアは、2018 年春に卒業する大学生が就職活動で内定を得た企業数の平均が比較可能な 12 年調査以降では過去最高であったことを発表した。内定を得た企業数の増加に関しては、企業が内定辞退を見越して採用活動を実施していることも一因として挙げられるが、これらを踏まえても近年の就活の潮流として「内定が出た企業に行く」という以上に「いくつかの内定の中から行きたい企業を選ぶ」という形に移行していることが考えられる。一般に就活生は、就活開始時点において将来の予期や目標設定を行っているが、そうした当初の意識は厳しい就職活動の現状や「自己分析」「会社訪問」を行うべきといった、いわゆる「就活文化」や私的な人間関係のあり方によって大きく影響を受ける可能性を秘めている。とりわけ体育系の大学生は、部活動との両立などにより、より短い期間において目標設定を行い、就職活動を行う傾向にあることからも、目標設定や就職観に関する外部からの影響を、いかに受け止め、取捨選択しているかという点を明らかにすることは、非常に需要な問題であると考えられる。

昨今の経団連の就活ルールの見直しや、インターンシップの参加率が八割を超えるなど、より長期化傾向を示す就活戦線において、短期間で就職活動を行う体育系大学生の意思決定のプロセスを明らかにすることは、体育系大学生の就職活動を見直すきっかけという観点からも非常に重要であると考えられる。そこで本研究では、体育系大学生が実際の就職活動の経験を経て、最終的な進路をどのように決定しているのかを質的なデータから明らかにすることを目的としている。

2.　研究方法

本研究では、部活動への所属やスポーツ活動の継続が大学四年生の就職活動の際の意思決定にどのような影響を及ぼすのかを明らかにするため、体育大学に通う卒業後の進路が決定している大学四年生の快諾を得て、集団種目、個人種目の部活動に所属し、レギュラーとしてインカレに出場し、4 年間部活動を続けた大学生を対象にインタビュー調査を行った。

本研究では、卒業後の進路が決定している 12 名の大学 4 年生を対象に半構造化インタビューによりデータを収集した。なお、KJ 法を用いた分析の際には KJ 法のトレーニングを受け、普段より KJ 法を行っている経営学を専攻する大学院生２名と KJ 法のトレーニングを受けた大学生５名によって行った。

３．主な結果と考察

本研究の目的である、スポーツ経験が就職活動の意思決定に及ぼす要因に関して、本研究では少なからずスポーツ経験と意思決定の関連が多少なりとも見ることができた。スポーツをするために一番バレーが強い企業に就職したいと答えた人や、競技と仕事が両立できる企業への就職を目的として就職活動を行っている人もいた。また、将来どのように考えているかという質問に対して、多くのインタビュー対象者が、今後は指導者として教えていきたいと答え、スポーツが意思決定をする際の大きな要因になっている対象者が少なからず存在した。

４．結論

（１）.体育系大学生が就職活動の意思決定をするにあたり、部活動を通して得た「周囲からの影響」「スキル」や就職活動中にそのスキルから得た「正の経験」が意思決定の軸、ひいては将来の展望に影響を与えている。

（２）.必ずしも部活動経験が就職活動の意思決定に影響を及ぼしているとは限らない。
（３）.体育大学生が今後の進路を選択するにあたり影響を及ぼしている要因は、スポーツ経験だけではなく、複数の要因が影響を及ぼしている。

５．卒業論文の執筆を終えて

本論文の執筆にあたり、お忙しい中多くのご指導、ご鞭撻をいただきました水野基樹先生に心から感謝申し上げたいと思います。また、毎週水曜日に行われるゼミ活動や定期的なイベント、OBOG 会やゼミ合宿など、年間を通して水野基樹先生には大変お世話になりました。そして就職活動ではお忙しい中自分の進路相談のためにお時間をとって親身に相談に乗って下さりました。このゼミ活動で私は先生のおかげで大きく成長することができました。この二年間は自分の父親よりも話す時間や過ごす時間が長く、自分の父親のような存在でした。

また、本論文を執筆するにあたり、論文の書き方等をご指導いただきました、スポーツ経営組織学ゼミナールの大学院生である高鷹さん、山越さん、杉浦さん、菅野さん本当にありがとうございました。高鷹さん、山越さん、杉浦さん、菅野さんにはテーマ決定から調査、論文の書き方、添削などをしていただきました。また大学院生の方々にはKJ 法の分析方法やインタビューのやり方について教えていただきました。みなさん修士論文等々でとてもお忙しい中、ご助言や添削など、何度もご指導いただき誠にありがとうございました。そして、自分の卒業論文で忙しい中、急なお願いにもかかわらずインタビュー調査に快くご協力してくださった順天堂大学の仲間、地元の友人に深く感謝申し上げます。皆様のご協力がなければ本論文の完成に至りませんでした。本当にありがとうございました。